

2019(平成31)年

4月発行

にこにこ通信 NO. 26

NPO法人にこにこの会は、東京都内在住であり、小学1年生から高校3年生の発達に障がいのある児童（手帳がなくても発達に関し医療機関を受診、又は療育を必要としている児童）の放課後を豊かにし、発達を促すと共に、地域の方に開かれた活動をすることを目的としています。



《ご挨拶》

寒い冬の日々が過ぎ去り、あたたかな春がやってきました。

新学期が始まり、もうすぐ1か月が経ちます。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は、にこにこの会で働くスタッフの想いを詰め込んだにこにこ通信です。

子ども達の輝く姿とともに、私たちが日々感じている事や考えている事、

子ども達への想いを記事にしました。ぜひ、ご一読ください。

今年度も宜しくお願い致します！



にこにこキッズルーム（放課後等デイサービス）

外部の方、地域の方をお招きして

春休み目前のにこにこキッズルームに、音楽あそびの先生や、地域のボランティアの方が来てくださいました。ヴァイオリン鑑賞・演奏体験やパネルシアターなどの素敵な公演に、子ども達もわくわくした表情を見せてくれました。

●ヴァイオリン鑑賞・演奏体験

「スタッフだけではできない、専門的な内容のプログラムを子ども達に提供したい」という思いから、平成25年よりオフィスリブスタイルの先生方を外部講師としてお招きし、音楽あそびがスタートしました。今回のプログラムは、ヴァイオリン鑑賞・演奏体験がメインです。

子ども達にとって、ヴァイオリンは「存在は知っていても、普段なかなか身近で見ることがない楽器」です。見慣れないからこそ、興味津々な子もいれば、きょとんとした表情を見せる子もいて、反応はさまざまでした。

音楽あそびは、「音楽を楽しむこと」を大事にされていて、いつも子ども達の興味や好奇心を掻き立てるような工夫が満載です。今回は、「U.S.A」「パブリカ」など、子ども達にとって聴きなじみのある曲を介して、さらにはクイズ形式で楽しみながら聴くことで、子ども達にとって「非日常」であったヴァイオリンの音色を、より身近に感じながら、楽しく聴くことができました。



Aちゃんは、はじめはあまり興味がわからず、大好きなスタッフの横で遠目から演奏を聴いていました。

しかし、「曲当てクイズ」でヴァイオリンが身近なものに感じられてからは、徐々に目の輝きが変わり始めます。ヴァイオリン演奏体験では、いつの間にか、大好きなスタッフの横から離れ、先生から教わった「コツ」を友達に教えに回り、気付けばその場にいた誰よりも夢中で楽しんでいたAちゃんなのでした。



●パネルシアター

地域でパネルシアターを披露されている安池さんが、ボランティアとしてにこにこキッズルームでも楽しいパネルシアターを見せてくださいました。

今回は、子ども達にとってなじみの深い「大きなかぶ」のお話を披露してくださいました。安池さんの「うんとこしょ！」という声に合わせて、子ども達も大きな声で読みあげ、一緒に参加しながらお話を楽しみました。使用した絵人形を実際に手にとって見せてもらい、最後まで大盛り上がりの活動となりました♪



日頃からスタッフによる絵本やパネルシアターの読み聞かせを聞く機会の多い子ども達ですが、私たちスタッフの読み聞かせとは、見ている子ども達の反応にも違いが見られます。

普段見慣れない方がその場にいるというだけで、「誰が来てくれたの?」「何が始まるの?」と、これから始まる活動に期待感も高まります。さらに、いつもは聞き慣れない声で始まったお話は、子ども達の耳にもスッと入りやすく、みんなの視線は自然と安池さんの方へ。抑揚のついた安池さんの読み聞かせに、いつも以上に集中して聴き入っている子ども達の姿がありました。

(奥山)

外部や地域の方との交流は、子どもたちにとってにこにこキッズルームの日々の活動の中だけでは味わうことのできない「非日常」を体験することができるだけではなく、スタッフにとっても、前に立つ側としてではなく、子ども達と同じ目線に立って心の動きに共感することができる素敵な機会となります。外部や地域の方の力を借りしながら、私たちスタッフは、子どもの視点をもつというとても重要で、実は難しい力を磨いていきたいと思います。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

○● コラム「ぼくでなきや」●○



Rくんが今年の3月で小学校を卒業しました。

私がRくんと出会って5年の月日が経つスピードにとても驚いております。いつも「ゆーしゃーんっ。」と呼んでくれるRくん。名前を呼んでくれるようになったのはいつ頃からなのか。ただ、私の名前より「まっきー、まっきー。」と他の職員のあだ名を呼んでいる方が先でした。その時は悔しくもあり、寂しくもあり…

私はRくんが小学1年生の頃から関わっておりましたが、しばらくふくふくに所属していた時期や、平日休みも多かったため、Rくんと顔を合わせる機会が減っておりました。だから久しぶりに顔を合わせた時は、私のことを忘れたりしてないかなあといらぬ心配をしたこともあります。

小学2年生の時に土曜活動で井の頭公園に行った時、私とペアで行動をしていました。当時はまだオムツだったRくんが「トイレ。」とのことで、トイレに連れて行った際に初めて便座に座って用を足すことができました。「すごいね。トイレできたね。」と声をかけ、その時のRくんの笑顔が今でも忘れられません。

また、小学4年生の時に運動会を見学に行つたこともあります。

私に気付くまでは特に変わった様子もなくしっかり列に並べていたのですが、気付いた瞬間にテンションが上がってしまい、演目中にも関わらず私に向かって手を振ってくれました。運動会なので見学している人たちも多かったのですが、その中からしっかりと私を見つけ出してくれたことがすごく嬉しく感じたことを覚えております。

現在も「まっきー。」と呼ばれることもしばしばありますが、学校からの車内でどんなに眠そうにしても、私がRくんの名前を呼ぶとぱッと目を覚まし、一気にハイテンションになり飛び込んでくれます。室内へ上がるとき度は靴もリュックも手も足もおもちゃもボールも飛んできます。さあ、Rくんを追いかけ回す時間の始まりです。

そんなRくんのひとつひとつの行動が今の私にとって原動力になっているのかもしれません。

もう桜も満開の時期は過ぎましたが、Rくんが中学生になることをしみじみと噛みしめながら、春を感じている今日この頃です。

Rくん、小学校卒業おめでとう。

ゆうさん(鮫島由弥)

ふくふく(放課後等ディイサービス)

3月、「今日が今年度最後の公園遊びかな」と子ども達から年度の節目を意識する言葉が聞こえます。また、「4月からはMちゃん水曜日に変わっちゃうんだよね」、「おれはホビークラブだけになるんだ」など、活動日の変更や、共に過ごしたメンバーの移り変わりに、少し寂しそうな表情が見られます。けれど、きっとそれらの感情は、ふくふくという居場所を、そこにいるメンバーを、好きでいてくれたから生まれた感情なのかな、なんて思います。

そんなふくふくの様子を少しでも知ってもらえるように、冬から春にかけての活動の一部をご紹介いたします。

「陶芸家デビュー！世界にひとつ、僕だけの食器」

今ふくふくの壁には、「○月はこんなイベントあるよね」とみんなで考えながら絵を描いてつくった、ふくふくカレンダーが12ヶ月分飾ってあります。制作の良さの1つは、作品をみると、Tくんがアイデア出してくれて落ち葉を拾いに行つたなあとか、Mさんの塗ってくれた背景はダイナミックで色使いが素敵だなあ、などそのときの光景が思い出されることではないでしょうか。

ふくふくではたくさんの制作に取り組んでいますが、今回初の試みで陶芸に挑戦しました。専用の粘土は硬く、思い通りの形に近づけるのは一苦労です。しかし、YouTubeで陶芸動画を探し、やり方を真似てみるなど工夫を凝らし、マグカップやお皿を完成させました。中には1時間半ほど集中して粘土をこねる子どももいました。

オープンで焼いて着色した完全オリジナルの作品は大事に持つて帰ります。保護者の方の、「こんなのが作れたの？」という声に、誇らしげな笑顔が光ります。一生懸命やったんだもん、ヒビもデコボコも、全部宝物だよね。



「鬼ごっこで地図のお勉強？遊びの中に育ちがある」

みなさん、テレビでおなじみの逃走中はご存知ですか？街中でハンターから逃げきる事ができたら逃走者の勝ちというあのゲームを、少しアレンジしてふくふくメンバーで再現。フィールドは、広い武蔵野の森公園の全域です。当然目で見える範囲だけではお互いに見つけられません。

そこで、Google マップの位置共有機能を使い、ターゲットの位置をスマートフォンで追いながらの鬼ごっこに挑戦しました。

地図を見ることは私たちでも難しいですよね？ところが、子ども達同士で「こっち側に学校があるから、鬼はこっち側だ」と、自分の現在位置と、相手の位置関係を見事把握しながら走り出しています。

私は放課後活動の醍醐味の1つに、「遊びの中にいかに自然に成長の種を蒔けるか」ということがあると思います。スマートフォンというツールを取り入れる事で、いつもは身体を動かすことが好きではない子どもや、集団遊びを苦手とする子どもにも興味を持ってもらい、みんなが鬼ごっこに参加できたらと思い企画を立てました。そこでは、想像していた以上に Google マップを使いこなすみんなの姿に驚かされました。移動の車の中でも、「今調布駅を越えたぞ」と Google マップから目を離さない子どももいます。いつかその子達が一人でお出かけをするとき、この経験が少しでも力になれば、そんな思いが胸をよぎりました。

子どもが1番成長するのは子どもが1番楽しんでいる時。 レーダーのように Google マップを駆使しターゲットを発見した瞬間には、「ほらな！よっしゃあ」と溢れる笑顔をこぼしながら、最後のタッチを目指して、いつもより力強く走り出す背中が見られました。結局この日は、「もう1回戦、お願ひ！」の声に負け、チームを変えて延長戦。帰りの送迎が少々遅くなってしまいました。けれど、まだ帰りたくない、もうちょっと遊んでいたいと思える放課後って素敵ですよね。活動時間が長い日に、ぜひまたやろうね♪ (大畑)



○● コラム 「きみでなきや」●○

ふくふくのムードメーカーといえば S 君。

S 君はダンスをしたり、歌ったりするのが大好きです。彼がふくふくの扉を開け、にこつとした笑顔を見せたり元気な挨拶をしたりしてくれると、私やスタッフ皆のもやもやしていた気持ちが明るくなる、S 君はそんな不思議な力を持っています。

私と S 君は4年の付き合いになります。中学生に入学した頃は、学校で先生に注意されたことでイライラをぶつけてきたり、好きなタブレットを見れなかったからと友だちと喧嘩になることもあり、私自身とぶつかりあうこともありました。どうやって落ち着いてもらおうか、この先どのように彼と接していくべきなのか迷いながら過ごしていました。

あっという間に、S 君は高校2年生になりました。振り返れば、ふくふくでの活動では失敗をしたり、時には立ち止まることがありました。しかしその中で、外出活動のリーダーやイベントの進行役等、仲間を引っ張る役割を担い、周囲に気を配る力を身に付けました。仲間に認められ自信をもち、成功体験を繰り返し積むことで、感情が高ぶって言葉が乱暴になり、物を投げたり、壁を蹴ったりしてしまう姿から、今では自ら「イライラしそうだから、周りに迷惑をかけてしまう」とスタッフに伝え、スヌーズレンに行って気持ちを落ち着かせたり、時にはスタッフを呼んで「なんで～してはいけないのか？」「～君はどういう気持ちだったかな？」と自身の行動を振り返る姿にかわりました。私は、S 君が感情のコントロールを出来る様になった理由は、自分自身を客観的に捉え、周りのことを考えられるようになったからこそであり、それはふくふくの仲間との関わりで成長したからであると実感して、とても嬉しい気持ちになりました。

周りの空気が重いと感じれば、察してわざとふざけて皆を笑わせるようなことを言ってみたり、歌を歌ったり、ダンスをして皆を巻きこんだり、いつのまにか彼の周りには友だちやスタッフも集まり、輪が出来ているのです。

私自身、お誕生日会や季節行事の時など、心の中で盛り上がりたいな…と不安に思った時は迷わず S 君を探し、司会をやってもらうなど頼ってしまいます。スタッフにとっても S 君は頼もしい存在なのです。スタッフや友だちとお別れの時も、皆が何を伝えれば良いのか言葉に詰まっていた時には真っ先に手をあげて、真っすぐに相手の目を見て自分の気持ちを言葉にして伝える姿がありました。

そんな S 君の成長を目の当たりにして、私は、自分の気持ちを素直に言葉にして伝えるこ



との大きさや、失敗をして立ち止まることがあっても一歩ずつ前に進んでいくことが大事なんだと学びました。ふくふくに来ている他の子ども達にも学んでほしいと、支援をしていくうえで声かけのタイミングや距離感、事実だけを鵜呑みにして接するのではなく、お互いの話や主張を聞いたうえで対応していくなど意識が変わっていました。

日々成長していく姿を見られるのは嬉しいことであり、ふくふくで今までやってきたことは、少なからず力になれているのかなという気持ちが、私の明日からも頑張れる活力の源になっているのだなと感じました。

S君はふくふくにとってはなくてはならない存在です。2年後には高校を卒業してふくふくを卒立つ日がきます。これからも彼を頼ってしまうことも沢山あると思います。時にはぶつかりあうこともあるかもしれません。それでもお互いに成長し尊重しあえる関係でいたいと心から思います。

まっきー（槇田智史）



「調布にこにこの会」で検索！

子ども達の様子は、ホームページにてブログ形式で紹介しています。ぜひ、ご覧ください。

<http://2525kids.org/>

にこんち(短期入所)

にこんちは、子ども達にとって、自宅でもない、田舎のおばあちゃんの家でもない、けれど、なんだか居心地がよくて落ちつく「家」。玄関から「ただいま！」と大きな声で帰ってくる子ども達のために、おいしい夕食をつくって待っているね。



スタッフのつくりごはん♪

にこんちのご飯は、スタッフの愛情がこもったてづくりです。にこんちの台所を使って、子ども達が来る前に下ごしらえ。



いっぱい食べてほしいなあ、食べられるか分からなければつくってみよう、食べられなかつたら困るから大好物は用意しよう、など考えていると、品数が増えてしまいます。たまにはデザートも作ろうと、手作りプリンを作る日も。(写真左上)



またある日は、台湾DAYと名付け、台湾料理の魯肉飯(るうろうはん)、小籠包、野菜炒め、鶏がらスープの献立を用意しました。

ちなみに、魯肉飯は、台湾ではおふくろの味と言われているそうですよ。(写真左中)

(西村)

木下財団から助成して頂き、タブレットを4台購入しました。余暇の充実、生活支援に役立てます。ありがとうございます！

○● コラム「ここでなきや」●○



にこんちに短期入所にやってくるDくんは、高校2年生になりました。私の付き合いは、もう6年前、彼が小学5年生のときに始まりました。やんちゃで、子どもらしく伸び伸びとして、ここには書けないようないざらもしてきたDくんは、今ではお手伝いをたくさんしてくれます。お米を研いだり、炒め物の調理をしたり、配膳や下膳をしたり、ふくふくに電話連絡をしたり、とても頼もしい姿をたくさん見せてくれます。お手伝いの中には、卒業後や就労を意識し、支援課題としているものとしてスタッフからお願いしたものもあります。しかし、Dくんはいつも快く引き受けてくれ、それが終わると「なにかやることある?」「あるならやるけど」と意欲的に取り組んでくれます。

小学生ではないDくんに、「えらいね!」「さすがお兄さん!」というような褒め方はしませんが、私をはじめスタッフは、「さすがだなあ!」「助かるよ!」とたくさん褒めるようにしています。Dくんは、褒められると嬉しくて張り切る姿を見せてますが、なぜでしょうか。褒められただけが、原動力になるのでしょうか。私は、ただ褒められるから頑張るのではなく、自分自身で自分のやったことに対して達成感や手ごたえを感じるからこそ、褒められた時の嬉しさが大きくなり、さらに頑張ることができるのだと思います。そして、その褒めてくれる相手、つまり、にこんちのスタッフは、日々放課後と一緒に過ごし、楽しい時を積み重ね、信頼関係を築いているからこそ、嬉しさはさらに大きくなり、お手伝いのパワーになっているのだと感じています。

そのようなDくんの日々成長していく姿と自発的な姿を見ていて、私はとても嬉しい気持ちになるのですが、そのDくんのお手伝いを通してスタッフも嬉しさを共有している姿を見ると、にこんちの存在意義を感じられずにはいられません。

信頼関係を築いている子どもとスタッフが、安心できる場所で一緒に活動し、達成感や手ごたえを分かち合い、笑顔で過ごす。対等な友だちのような横の関係や親子や師弟のような縦の関係でもなく、自由で縛りの無い斜めの関係であるにこんちのスタッフだからこそ、多様な関わり方ができる。単なる預かりの場でもなく、きっちりした訓練の場でもなく、安心して居ることができる第三の家がにこんち。“短期”入所であるため、毎日「おかえり!」「ただいま!」と挨拶することはできませんが、家庭以外に安心できる場所があるから、子どももスタッフも毎日の生活の中で小さなチャレンジが出来るのです。小さなチャレンジの中で小さなできた!を積み重ねていく。そして褒められ、手応えを感じ、認められ、また小さなチャレンジへつながって

いく。

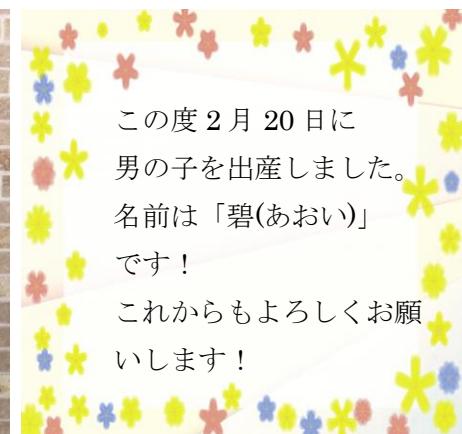
サポートステーションにこんち。大好きな子どもと大好きなスタッフが過ごす短期入所、その中で様々な力を培っていく。にこんちでなきやできない支援を、これからも、ずっと。

にしむ (西村綾介)



あびさん 第一子ご出産!

産休に入っていた職員の野原より、赤ちゃん誕生の明るいニュースが届きました。これから、野原は育休に入ります。出産の嬉しいニュースには、子ども達も大喜び!野原からのメッセージを紹介します。



木下財団に取材を受けました



先日、木下財団に「楽しむことを大切に、主体性を育む」取り組みを取材して頂きました。ぜひ、ご覧ください。

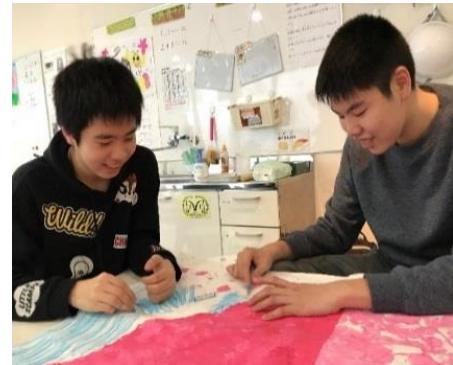
社会福祉法人木下財団 <http://www.kinoshita-zaidan.or.jp/information/833/>

卒業を祝う会～放課後等ティを卒業する子ども達～

3月下旬に、Kさん、Mさん、Tさんの卒業を祝う会がありました。2月に3人を送り出す子ども達に卒業を祝う会の話をすると、寂しくなりつつも、様々な気持ちを表現している姿がありました。

☆★★桜の壁面作り☆★★

卒業を祝う会では、2本の桜の壁面や看板が会場を華やかにしてくれていました。桜の部分はピンクの絵の具をスポンジにつけて、トントンと色を乗せていきます。根気のいる作業でしたが、3人ずつで30分間、ひたすら、諦めずに取り組んでいました。背景の空には水色のクレヨンで塗っていました。ただ塗るだけの作業でしたが、水色と違う色で塗った部分をこすって混ぜたり、針金で引っ掻き絵にしたりという工夫で、素敵な作品に仕上げていきました。そして、幹と根っこと芝生の部分は絵の具で塗りました。子ども達のアイデアで手形をしてみたり、指で塗ってみたりと楽しみながら、制作をしていました。



もう1本の桜と幹と根っこは同じ工程でしたが、背景の空の部分と芝生の部分は少し工程を変えています。青と緑の絵の具で塗った画用紙を切って、貼り絵にしました。濃い色や薄い色をじっくり選びながらクレヨンで描いて、はじき絵や色んな濃淡をつける子どももいました。貼る作業でも個性は輝いていて、隙間を詰めて貼っていく子どももいれば、少し間を空けて、スペースを考えながら貼っている子どももいました。

☆★★☆看板づくり☆★★

看板作りでは、“卒業を祝う会”の白文字の中に貼り絵をしていきました。色のバランスを考えた子ども達のカラフルな文字に仕上りました。その後に文字の縁取る色塗りを行いました。単色で塗ったり、色んな色を混ぜたりする子どもがいました。それ以外にも「イラスト描いてみる」と言って、子ども達皆が好きなキャラクターを描く子どももいて、オリジナルの看板が出来上りました。当日、その看板は会場の入り口に飾られ、心を込めて送り出すという気持ちを引き立ててくれました。

☆★★☆完成後☆★★

壁面と看板が作り終わった子ども達からは「寂しいな」という声もありました。それは、「きちんと」「しっかりと」「感謝の気持ちを込めて」作品を作る中で、卒業する子ども達との思い出を大切にしたい気持ちが表れているようでした。彼らのこのような気持ちや、友だちと協力して集中し一生懸命にやる姿こそ、ふくふくの良さだと思いました。私は、この桜の制作は心がこもっているので、どの桜よりも素敵に見えました。看板も一枚一枚に一人一人の思いで作られたこの世にたった一つの物だと感じました。



★★★KさんとMさんとTさんの卒業を祝う会★★★



卒業を祝う会は、水曜日と金曜日、通いなれた曜日に合わせて2回開催しました。式の始めは卒業生の入場、Kさんは大好きなプリキュアの曲で堂々と入場しました。MさんTさんの時は卒業らしい春の曲で一步一歩踏みしめるように入場しました。Tさんは、

式の流れを何回も確認していましたが、緊張しつつも晴れ晴れとした表情が印象に残ります。卒業生が入場するとスタッフ手作りの記念ムービーを見ました。初めてにここに来た小学生の頃からの写真をじっくり見ていました。



続いては、ふくふくの子どもによる出し物でした。Kさんの卒業を祝う会では、ピアノが得意なI君によるピアノ演奏がありました。I君は演奏を快諾してくれ、Tさんの為にIくんは祝う会に向けて練習を繰り返してきました。

“さんぽ”を披露してくれましたが、Iくんは緊張する様子もなく、気持ちを込めて奏でてくれました。MさんとTさんの時は、S君による“あたりまえ体操卒業ver”でした。S君は、二人の良さを「あたりまえなこと」として紹介してくれました。S君のMさんとTさんへの想いを感じるとともに、会を明るくしてくれました。

その後は、卒業生に関する○×クイズを行いました。卒業生が問題の答えを言うのですが、少し考えてからKさんは教えてくれました。Mさんは、事前に答えるのを練習していたのですが、練習と異なる意外な答えが返ってくることもあります。司会の私だけでなく、会場全体に笑いが起こっていました。Sさんはしっかり考えて答えてくれました。

そして、いよいよ卒業証書授与と送る言葉です。子どもやスタッフ、ボランティアさんが思い出を振り返りながら、Kさん、Mさん、Tさんへ温かいメッセージを伝えていきます。一つ一つの言葉をじっと3人の卒業生は聴いていました。卒業生からの言葉では、「○○で元気に働きたいです」などの前向きな次へのステップへ思いが語られました。

会のフィナーレに、“旅立ちの日に”を歌いました。卒業生3人と、ふくふく、にこにこの子ども達、スタッフ、ボランティアさん、保護者の方の素敵な



歌声が響き渡りました。

卒業生の次へのステップの決意や卒業生を送り出す子ども達や保護者、スタッフの卒業生への思いが溢れる素敵な卒業を祝う会でした。

会の準備する場面から会の終わりまで、一つ一つのシーンに気持ちが込められていて、穏やかに祝う会を行うことができました。送り出す私としては、色々な思いが溢れてきて、涙しそうになりました。皆で作り上げた卒業を祝う会は、素敵な雰囲気と時間になりました。

(稻見)

番外編

★☆★にこにこキッズルーム さようなら会★☆★

今年度は、にこにこキッズルームから5名がふくふくへ移動、1名が放デイ定期利用を終了し、合計6名が巣立ちました。3月末に、みんなで「さようなら会」を行いました。学年、登室曜日、にこにこに通った年月は一人ひとり違うけれど、たくさんの思い出が一人ひとりにあります。お別れは寂しいけれど、新しい環境で挑戦するみんなの活躍を、にこにこキッズルームで応援しているよ。

(梶原)



よみうりランド

今年も、3月2日と30日に、土曜日活動でよみうりランドへ行つきました。2日はにこにこキッズルームとふくふく合同でした。

過去に在籍していたスタッフが2日間ともに遊びにきてくれ、子ども達からは、喜びに満ちた笑顔と共に名前を叫ぶような歓声が聞こえてきました。



☆★☆3月30日（土） MさんとTくんの話☆★☆

始めから行きたい場所が違ったこの班。各々が希望の乗り物を口にし、話がまとまらないうちに違う方向に歩き出てしまいました。昼食後、スタッフが「班で一緒に回ろう」と提案してみても、行きたい場所や先に自分の乗りたいアトラクションに行きたい気持ちに折り合いをつけられず、再び違う方向へ。

Tくんは、班のいる場所から去ると、乗りたかった絶叫系のアトラクションを中心に回りました。たくさん乗れて満足しているTくんです。スタッフは、もう一度、みんなで回ろうと提案をしてみました。実は、同じ班のMさんは、この前日に卒業を祝う会があり、ふくふくでの平日活動を終えたばかりでした。

スタッフが「Mさん今日が最後の土曜活動なんだけど、最後の思い出に一緒に回らない？」と提案すると、考え込むような素振りをみせ、「はい」と快く承諾してくれました。Tくんは、卒業を祝う会で司会をしてくれるなど、友達想いの一面があります。一緒に過ごした日々やお祝い会を思い浮かべて了承してくれたのかもしれません。始めは違う方向に歩き出したこの班ですが、最後には一緒に仲良く回ることができました。

（茂手木）



ご協力ありがとうございました。

（平成30年10月1日～平成31年4月11日）

【正会員入会の方（新規・継続）】

飯田明彦さま、遠藤裕子さま、大村益央さま、加藤あゆみさま、柏原真理子さま、樺ゆかりさま、小谷真理子さま、近藤裕子さま、齊藤幸江さま、三枝則子さま、鈴木名美さま、竹内琢磨さま、塚田直美さま、津田博子さま、徳田愛子さま、外島美保子さま、針谷邦治さま、平野友子さま、藤村武さま、細木力さま、内藤英子さま、西澤由実さま、水戸和幸さま、水戸愛さま、南厚美さま、壬生貴子さま、渡邊里美さま

【賛助会員入会の方（新規・継続）】

蟻坂椿さま、飯出由美子さま、磯部直美さま、海老沢千絵さま、大村益央さま、尾上さよ子さま、金森香織さま、川村和子さま、菊地敬子さま、串間勇二さま、栗原秀樹さま、河内造さま、照井修司さま、中村円さま、野口基太郎さま、松岡有子さま、間藤こずえさま、宮井裕子さま、壬生貴子さま、山田千晴さま

【ご寄付】

天野有紀子さま〈お菓子〉、遠藤裕子さま〈お菓子〉、大畠拓人さま、〈お菓子〉、尾上小百合さま〈食品〉、木村悠さま〈食品〉、小谷真理子さま〈衣類〉、齊藤幸江さま〈お菓子〉、鮫島美咲さま〈お菓子〉、鈴木恵美子さま〈お菓子〉、高槻美希さま〈お菓子〉、内藤英子さま〈お菓子〉、中小路迪恵さま〈お菓子〉、中村綺さま〈食材〉、西澤由実さま〈お菓子〉、西村綾介さま〈お菓子、食材〉、富田学さま〈玩具〉、平野友子さま〈お菓子〉、宮井裕子さま〈お菓子〉、向井知佳子さま〈お菓子〉、匿名さま〈食品〉

【ボランティアさん】

天野有紀子さま、有井友紀さま、尾上小百合さま、小林一昭さま、八木千佳子さま、安池真理子さま、吉武克真さま
第41回調布市福祉まつりにご参加いただいたお母様方

見学や体験をご希望の方

現在にここにこの会には小学校1年生から高校3年生まで、総勢63名の児童が通っております。

※児童在籍学校

第一小学校、八雲台小学校、神代中学校、調布中学校、調布特別支援学校、府中けやきの森学園
(2019年4月現在)



利用登録受付は随時行っています。

下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

NPO 法人にこにこの会 法人本部
TEL/FAX 042-499-5660



ボランティアをご希望の方

にこにこの会では、常にボランティアさんの受け入れを大歓迎でお待ちしております♪子どもとの関わりや活動内容に興味のある方、ぜひ、元気いっぱい笑顔がまぶしい子ども達に会いに遊びに来てください！未経験者、学生さん歓迎です(^^)

平日は月～金曜日までの放課後、土曜日にも1日活動を行っております。時間帯など詳しいことは、下記連絡先までお問い合わせください。回数や曜日は応相談、不定期でもOKです！お待ちしております♪

NPO 法人にこにこの会 法人本部
TEL/FAX 042-499-5660



※求人募集も適宜行っております。

お仕事として一緒に働きたい方も、お気軽にお問い合わせください。（管理者、正規職員、非常勤職員など求人内容は都度変わります。必ずお電話にて詳細の確認をお願いします。）

賛助会員大募集！

NPO 法人にこにこの会では、障がいのある児童の放課後を豊かにし、発達を促すと共に、地域の方に開かれた活動をすることを目的としています。

この趣旨にご賛同いただき、運営を支えていただける会員を募集しております。

どうぞよろしくお願い致します。

☆賛助会員 一口 3,000円（一年間）

※複数口、お申込みいただくことも可能です。

みずほ銀行 調布支店 普通口座 1367700



発行元・お問い合わせ先

NPO 法人にこにこの会

法人本部 TEL/FAX 042-499-5660

調布市下石原1-2-4 ヤシマビル2F

(見学、ボランティア、求人希望等はこちらへ)



各事業所連絡先

にこにこキッズルーム：調布市下石原1-2-4 ヤシマビル2F (042-499-5660)

ふくふく：調布市国領町5-74-1 アブソリュート調布103 (042-444-7807)

サポートステーションにこんち：調布市下石原2-42-8 (042-426-4375)